



Memorial Wedding

「高瀬舟さかい丸」で船上結婚式



6月28日、江戸時代に栄えた水運を観光に生かそうと、利根川河川敷「高瀬舟さかい丸」の船上で、初めてとなる結婚式が開かれました。

新郎新婦は、小山市の自営業、佐藤孝俊さんと松沼理江子さんで、境香取神社の佐々木慧宮司が神職を務め神前式で行われました。

船上では、約20名の参列者が新郎新婦の新たな門出を祝福しました。

挙式後、さかい丸は境河岸から上流約3kmにある江戸川との分岐点付近まで約40分間遊覧し、その後河岸を会場にして、披露宴が開かれました。

新郎新婦は「こんなに素晴らしい式を挙げる事ができて、感謝の気持ちでいっぱいです。」と喜びを語りました。

▲船上での神前式

参列者と記念写真▶

◆問合せ先  
道の駅「さかい」  
電話(87)5011

俳句

兼題「新茶・麦飯・鯉幟」他当季雑詠

五月十六日 境町文化協会俳句部

新茶の香郷愁そそる焙炉かな 弥生

※昭和のどの辺りまでだったろうか。むかしは自分の茶畑で摘んだお茶の葉を自身で製茶する農家が何軒もあった。その折の道具が焙炉だ。家族総出の当時の光景が彷彿と蘇ってくる。

新茶飲む夫婦ぢやわんが和を深む 譲一

※待ち侘びた新茶の季節である。二人差し向いで黙って新茶を飲んでる。黙ってはいるのだが、今、相手が何を想うかは一目瞭然だ。それが夫婦というものだ。

矢車の軋む音さへ心地よく 正六

※五月の風物詩である鯉幟。男児の出生を喜び、健やかな成長を願う親たちの深い思いに満ち満ちている。矢車が風に軋んで騒音をあげても、親にとっては心地よく聞こえるから不思議だ。

仏壇に冷ませし新茶香り添え 仁

身に沁みる味色香る新茶かな 健二

うたた寝の父に濃い目の新茶かな 香こ

麦飯や急ぎ摺りたるとろろ汁 ちよ

久々に訪はんと途中新茶買う ちね女

過ぎし日の懐述探し麦の飯 登

田に張りし水面に揺れる鯉のぼり ちから

筑波嶺を尾が撫でてゐる鯉幟 省三

恙なく今年も新茶汲む至福 信子

麦飯のまとまり悪しき握りかな なが

鯉幟かつては何処も子沢山 とき

新茶汲む作法に妹他人めく まもる

病床にありて汲みたる新茶かな 幸子

香り愛で舌で味わう新茶かな 光夫

猫舌と雖も分かる新茶かな 正映

短歌

境短歌会 山鳩

さくら桃共に咲きいる溪谷をトロッコにゆられ行く老いのふたり 齊藤 敬子

「天狗山のでんぐのようだねこの葉っぱ」愛娘の言葉に大笑いする 川村 米子

湯の郷に友と出向けば久しくも芝居に見入り時を忘るる 風間 リヨ子

芍薬の優美な花を眺めしもはかなき命麗し残像 川上 ヒサ

馬鈴薯は隣の畑より出来わるくうす紫の花は愛らし 稲田 美重子

深緑山々越えて猪苗代広き湖輝いて見ゆ 飯田 俊子

名も知らぬ真白き花に蝶が舞う輝く葉には初夏の風吹く 松岡 美智子

蛙啼く水田に早苗風にゆれ畔を歩いて蝶の舞うを見る 本島 いと子

偶然に恋しい人と再開す又会いたいね又会えるよね (同級生) 五月女 三枝子

娘の摘みしミントを紅茶に浮かばせてすがしき香り楽しむ三時 鈴木 喜与子

夕暮れに染まりし利根の大橋は行き交う車ミニカーの如し 桜井 レイ

今年も早いもので後半へと入りました。中旬以後に梅雨が明けると本格的な夏の暑さになります。海開き、山開きも有り孟蘭盆会の行事が行われる所もあります。五月には時ならぬ台風が来たり、箱根では火山活動が活発になるなど自然界の変化と共に人為的な災害も多く心が痛みます。体調に気をつけ乍ら気を引きしめて風景や現象を歌の上に表わして行ければ良いと思います。

**Yakult スタッフ大募集**

★何でもお気軽にご質問下さい。ノルマや商品買い取り等をなく、楽しいお仕事ですよ。

報酬●100,000円～ 自家用車でのお届けも可  
時間●9:00～15:00  
休日●日曜・土曜日(会社カレンダーによる)  
待遇●表彰制度/海外招待旅行等/福利厚生/各種傷害保険等

勤務センター 境センター  
※近隣のセンターでも募集しております。お気軽にお問い合わせ下さい。

古河ヤクルト販売株式会社  
古河市南町1番62号(国道4号線沿い) 本社:受付/(平日8:30～17:00)  
フリーダイヤル 0120-81-8960